

4月 は 新 年 度

株式会社榎戸材木店
会長 榎戸 正人

さて、4月からはよいよ新年度。役所も学校も心機一転、企業は決算月が様々だとは言っても、新入社員も入ってきて、やはり新しい年の始まりだという意識はあるのでしょうか。特に役所と関係のある業種、例えば公共建設を請け負う建設業などは新年度予算での工事を受注するため、年度替わりは重要です。

しかし、よく考えてみると4月から新年度という国は日本くらいのもので、ヨーロッパ諸国もアメリカ、カナダも1月が年度のスタート。旧正月を祝う中国や東南アジアも、国の会計年度は先進国に合わせて1月から新年度としているようです。

なんで日本だけが4月になってしまったのか……世界の常識は日本の非常識と言われてしまいそうですが、日本人は何の疑問も感じずに4月から新年度という考え方が定着しています。学校の入学に関しては1月が入学ではなく、ほとんどの国は夏休み終わりの9月が入学なのですが、これが外国人留学生を受け入れるときにはネックになり、卒業してすぐに日本に来て、翌年の4月までは無駄に過ごすこととなります。まあ、日本語の勉強をしたり、日本の風習に慣れる期間だと思えば、無駄ではないのかも知れませんが。

明治維新で、あれほど多くの知識や制度をイギリスやドイツ、フランスから取り入れた国が、新年度だけは1月に合わせなかったのは何故なのか？ チコちゃんに聞きたいものですが、そんなこと、「知んねえど」と言われそう……おそらく春夏秋冬のある日本としては、春のスタート、4月からにしよう。桜も咲いている頃だし、そのくらいは日本の独自性を残そうと考えたのかも。

そもそも、江戸時代に会計年度という発想や制度があったのかもよくわかりません。むしろ、お米の取れる秋の方が重要だったでしょう。明治時代の為政者は、咲いてすぐに散る桜に無常観を感じ、あこがれていたのかも知れません。明治維新に活躍した人たちは早死にする人が多く、なんで30歳かそこらの人生であれだけのことを成し遂げたのか、本当に感心してしまいます。今の政治家のような老害はなかったかも。

当社のような11月決算という中小企業は4月から新年度だと言われてもピンときませんが、最近は保育園児、小学生、中学生を対象とした木工工作をやっているので、年度が替わるとその年の課外授業のスケジュールを組むらしく、その相談が来ることに年度替わりを感じるくらいのものです。

とは言っても、組合に入っていると年度替わりを意識せざるを得ません。総会は5月という組合が多く役員の変更はその時ですが、人事案は4月の理事会等で決められるので、新年度を意識することになります。もっとも、役員改選は2年に1度ではありますが。

ということで、今年もピンとこない新年度が過ぎていきます。